

「鎌原胡瓜 (かんばらきゅうり) の苗」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

鎌原胡瓜 (かんばらきゅうり) という、「ご当地野菜」がある。鎌原 (かんばら) というのは、群馬県吾妻郡 (あがつまぐん) 嬭恋村 (つまごいむら) にある地名である。嬭恋村ちょうど「鶴舞う形の群馬県」の一番西、「鶴のお尻」にあたる、北西南の三方を長野県に囲まれた場所だ。北に本白根山 (もとしらねさん)、西に四阿山 (あずまやさん)、南に浅間山をいただく、広大な高原の村だ。下の写真は、典型的な嬭恋村の風景である。「富良野に行ってきましたよ」と写真を見せれば、誰も疑わないだろう。



嬭恋の名産は、もちろん高原キャベツである。社会科の教科書にも載るほど有名だ。もう一つ、作付は少ないが、絶大な存在感を持った作物が「鎌原胡瓜」である。この苗が、小学校にある。



「鎌原胡瓜」の種子は、極めて入手困難だ。農協の種売り場に行っても、コメリ (「メリ」にアクセント。「おかゆ」と同じ抑揚が正しい。) に行っても、この種子は売っていない。私は知人の農家に頼んで、去年の秋に、この門外不出の種子を分けてもらったのだ。



その時、園芸が得意な算数の「バウ先生」に、その一部を託しておいた。それがポットの中で、見事な苗に育っていた。本来冷涼な高原で育つ作物である。東京の気候でも元気に育つか・・・それが心配だ。



鎌原胡瓜は、収穫時はこんな姿である。どんな花が咲き、どんな成長をするのか、実に楽しみである。